

自然共生サイト「横浜国立大学ときわの森」で 生物文化多様性の視点から自然共生を“自分ごと化”する

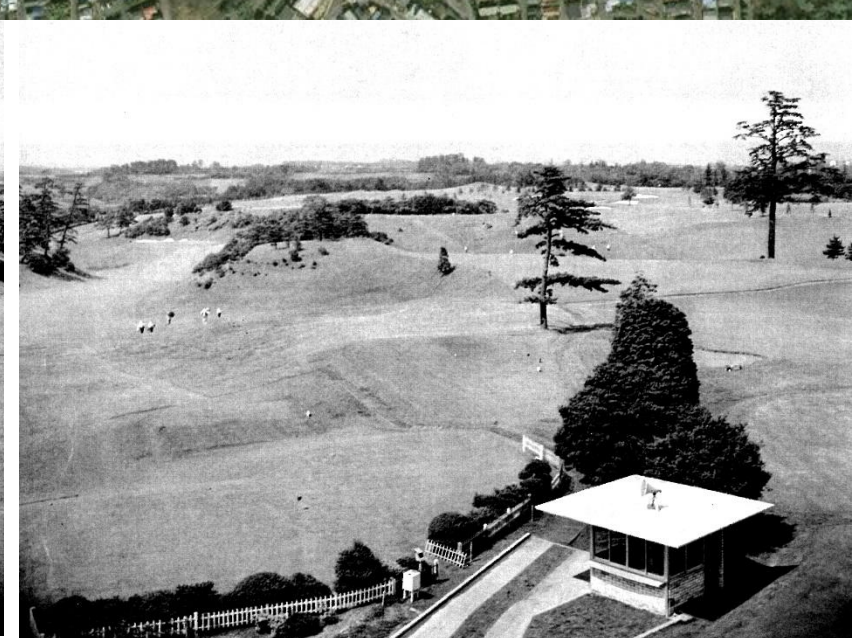


倉田 薫子(横浜国立大学 総合学術高等研究院)

開国された横浜の外国人用ゴルフ場

明治時代:ゴルフ場

1923年に18Hのコース完成、第1回全日本ゴルフ選手権大会開催。
1945年に米軍に接收。
1953年にクラブハウス(現存)が完成。
1967年に新コース(横浜市旭区)に移転。



1966年頃。造成によって地形はなだらかに改変され
マツ, サクラ, モミジバフウなどが植林された

程ヶ谷カントリークラブ50周年史編纂委員会(1972)

1970年代後半
都市における二次的自然の創出

現代：緑ゆたかなキャンパス

ふるさとの木によるふるさとの森づくり
(混植・密植方式, 宮脇昭名誉教授)

応用研究: 潜在自然植生に相当する多くの樹種を
高密度で混植する森づくり第1号の森
「速い・強い・メンテナンスフリー」



区分Bの環境保全林。左：1978年（鈴木邦雄氏撮影）、右2024年 同じ場所から撮影。



クスノキ



タブノキ



レクリエーションの場, 防減災, 気候緩和, 希少種のレフュージアとして機能

「つながりを回復する視点」から



ときわの森の現状:

- ・ 遷移が進み、種構成が変化している→生物多様性の低下
- ・ 樹木の成長が進み、落枝倒木による事故の危険がある

都市の樹林として

「ただそこに存在する」のも大事だが、「よりよい森の創出」へ
「メンテナンスフリー」から「人間と共生できる森」へ



学生によるモニタリングと維持管理活動



生物学特講II「竹林管理と野草調理」

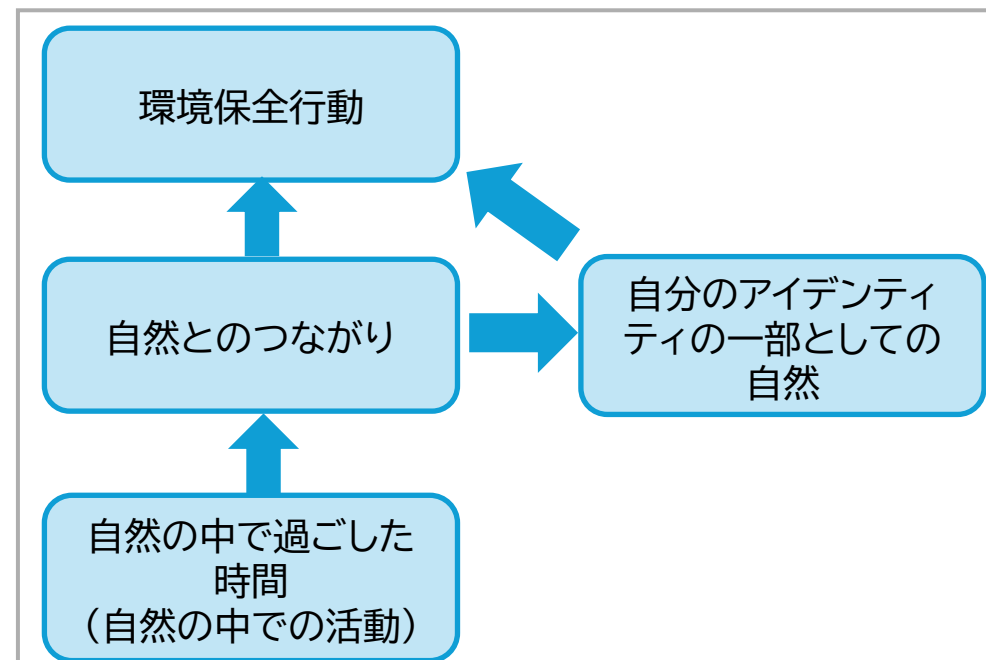
「つながりを回復する視点」から



経験の消失
自分ごと化の不足



幼少期の自然体験の量が、大人になってからの
環境配慮意識・行動に影響する(工藤・倉田, 2026)



自然とのつながりと環境保全行動との関連性を示す概念図: 自然の中で過ごした人は自然とのつながりを感じるようになり、自然が自分のアイデンティティの一部となり、環境保全行動をとるようになる。(Krasny, 2020をもとに桜井2024が和訳)



横浜国立大学・横浜市
よこはま森の楽校
第3回 さとやま
里山ESD BASE
横国の森ワークショップ祭
里山で考える未来

開催 10/27(日) 10:00~16:00
(受付 9:30~)

入場無料。各ワークショップの参加費は別項に記載されています。

里山におけるくらしや生き物とのつながりを感じられる
いろいろなワークショップを行います。
見て回って、興味のあることに参加しよう！

申込期間 (2024年9月24日~10月6日)
定員を越えたお申し込みがあった場合はワークショップのご参加を
行いません。抽選後10月10日までに参加の可否をお知らせします。

開催日: 2024年10月27日(日)
開催地: 〒220-8501
神奈川県横浜市中区宮前町7-2-2 横浜国立大学
教育学部 楽校 517号の森 (楽校前)

お問い合わせ: satoyama.esd.base@gmail.com

申し込み用紙
申し込み用紙ダウンロード

YNU 楽校 ESD BASE



子どもから大人まで
さまざまな体験活動を通して
自然環境に目を向ける

ときわの森 TOKIWA FOREST

学内のポイントは
こちらの地図から

QRコードから
この場所、自分や文化についての解説を聞くことができます。
ぜひ、散策しつつ、本学をお楽しみください。

All copy reserved: 横浜国立大学 総合学術高等研究院 生物圏ユニット 生物文化多様性ラボ



生物文化多様性で、自然共生への意識を“自分ごと化”する

ある土地の生物多様性と、その恩恵を受けてきた地域住民の土着の文化のもつ行動様式によって、生物多様性が維持されてきた相互作用



地域によって
異なる多様な生物がいる

地域によって
特色がある多様な文化がある

